

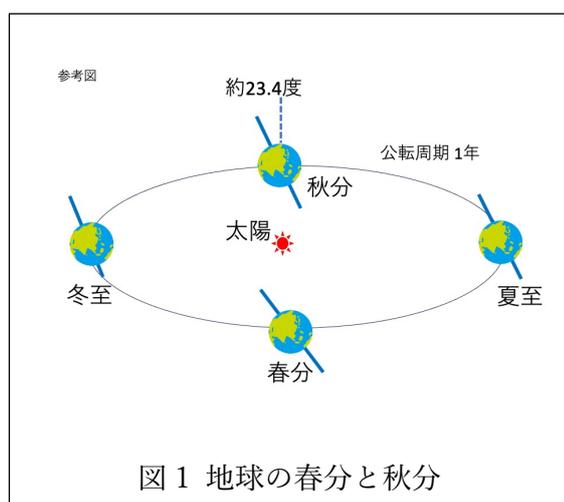
オープンアクセス¹

土星人のお彼岸

柴田晋平

地球人にとってのお彼岸とは？

お彼岸は春分と秋分という公転サイクルの節目です。太陽が真東から昇り、真西に沈みます。天球上では太陽は天の赤道にあります。地球の公転面に対して地球の自転軸が傾いているために年に二回太陽が天の赤道を横切ることになります。図を参照してください。

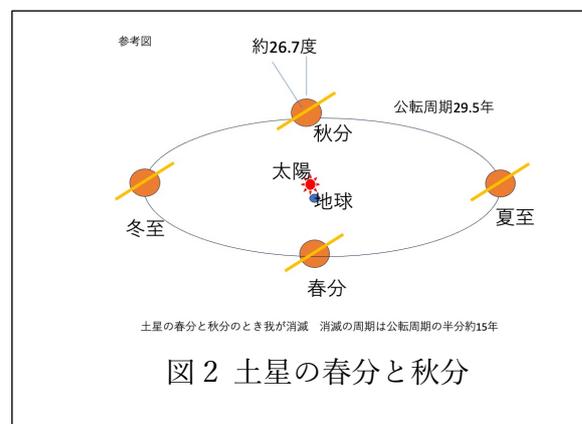


夏至の時は北半球では太陽の光がよく当たるので夏、冬至の頃は、北半球では太陽の光は斜めになり寒くなります。その中間がお彼岸です。

土星人にとってのお彼岸とは？

全く同じように土星の自転軸、そして土星の輪の公転軸も傾いています。地球の場合は23.4度で、土星は26.7度ですので、まあ同じような

ものです。



ここで注目したいのは土星の公転半径は約10天文単位、つまり、地球の公転半径の10倍もあるので、地球から土星を見るのも太陽から土星を見るのもたいして変わらないということです。すると図に見るように、土星の夏至と冬至の頃は土星の輪がこちらを向いてくれているということです。

そして、土星の春分と秋分の時は、を真横から見るので薄っぺらに見えます。輪の厚さは1kmほどですから、我が消失して見えるわけです。土星でお彼岸の時に、**地球人は輪の消失だ！**と騒いでいるわけですね。

実際は消失して見える瞬間は土星の春分・秋分と少しずれたり、いろいろな事情で複数回消失したりするそうです。

著者：柴田 晋平（しばたしんぺい）

1998年以來小天会員です。星のソムリエ。



この記事は、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスに基づくオープンアクセス記事です。引用の際は、著者名、題目、本会報名、No.ページを明記ください。

1